

名君を支え、弘道館の創設と 運営に携わった石井鶴山

日時：令和3年5月22日（土） 13時30分～15時

会場：佐賀県立佐賀城本丸歴史館 外御書院

講師：中尾 友香梨（佐賀大学全学教育機構教授）



聴講を御希望の方は事前にお申込みをお願いします。

お申込み 4月30日～（先着順）

定員 64名

- ・ホームページ
- ・電話 0952-41-7550
- ・館内受付カウンター

御予約の際、氏名・住所（市町）・電話番号を必ずお聞きます。
個人情報保護法に基づき、講演会関連の御連絡、コロナウイルス対応以外での使用はございません。

鍋島直正公の祖父、治茂公（第八代藩主、一七四五～一八〇五）は、佐賀藩の中興の祖と称される名君です。日峯社（松原神社）の創建をはじめ、徒刑（懲役刑）の導入、殖産興業政策による特産品の開発、干拓による新田開発、藩校弘道館の創設など、すぐれた業績を数多く残しました。幕末の佐賀藩の飛躍的な発展のために基礎を作ったといっても過言ではありません。治茂公による数々の偉業を支えたのは、その周囲に集まっていた優秀なブレインたちです。古賀精里、石井鶴山、長尾東郭などの人物たちです。鶴山は治茂公の侍講（学問の師）を務める傍ら、精里とともに弘道館の創設と運営にも携わっています。しかし長い間、その存在と事跡は広く知られないままでした。

歴史館ゼミナールでは、その足跡をたどり、ペールに包まれていた人物像を明らかにします。

